## 入門科目とは？

入門科目は、自分がこれから学んでいく学問以外でも、それぞれの学問が、人間と社会の構造や意味を「識る」ためにいかなる試みをしているのか、学問の「門をたたいて」いただくための科目として設定されています。みなさんはこれから、それぞれの専攻の学問を深く学んでいくことになります。個別の学問の「枠」の内部に深く入っていく前に、学問そのもの――人間や社会とは何か、どんな意味があるのか――について、自ら学び問う機会をぜひつくってください。「枠」に添うだけでなく「枠組み」そのものも考えるという行為こそが、学問の営みであり、自ら問う力をつくっておけば、個別の学問からの学びは格段に深いものとなるからです。その意味で、「入門科目」とは、「**入問**」のための科目ということになります！！

## 入門・社会とは？

入門科目のひとつである入門・社会では、現代社会を捉えるための社会学的な思考態度と方法を、講義やテキストの読解と、参加者各自の生い立ち・これまでの体験・日常生活での記録等のデイリーワークを通じて、考え、身につけ、参加者各自が自らの学問を見つけ、つくり始めることをめざします。到達目標と授業計画は以下のとおりです。

①地球温暖化、気候変動、環境汚染、森林破壊、大量消費・大量廃棄、貧困・格差・差別、飽食・飢餓、感染症、移民・難民、分断・紛争・戦争など、グローバル／ローカルに生じている諸問題とその背後にある構造を捉える理論と方法の基礎的な理解を深めます。
②現実の問題に対して、参加者それぞれの「実践」として私たちに何ができるか、新たな問いを立て、領域横断的に考える力を身につけること。長期的には、自らの言葉で考え伝え、現代社会における立場の異なる人同士を結ぶメディエイターとなるための力を身につけます。

【授業計画】
序論
第１回　イントロダクション
本論①：人間と社会そのものを考えるための理論と方法
第２回　人間と社会の学とは何か
第３回　日々を記録し人間と社会のうごきを捉える
第４回　都市文明と大量消費・大量廃棄――地球規模のシステムの限界
第５回　地域開発と地域社会の変質、生存のための地域社会を考える
第６回　複数の目で見て複数の声を聴き、複数のやり方で考えていく
⇒ 序論と本論①で理解したことを「中間レポート」として提出する。

本論②：問い／認識のレベルでフィールドをみつけ、実践していく
⇒ 本論①と関連して、フィールドワークの先達たちの視点と方法に学んでいきます。
第 7 回　人間と社会のうごきをとらえるフィールドワーク①デイリーワークとしてのフィールドワーク
第 8 回　人間と社会のうごきをとらえるフィールドワーク②本のフィールドワーク
第 9 回　人間と社会のうごきをとらえるフィールドワーク③歴史のフィールドワーク
第 10 回　人間と社会のうごきをとらえるフィールドワーク④場所のフィールドワーク
第 11 回　人間と社会のうごきをとらえるフィールドワーク⑤異文化へのフィールドワーク
第 12 回　人間と社会のうごきをとらえるフィールドワーク⑥学生による調査立案
第 13 回　人間と社会のうごきをとらえるフィールドワーク⑦学生の実践と発表

結論部：学問の使命／人間の道――何ができるのか／何をするのか
第 14 回　総括――現代社会を生きる存在として、考え、何かを始める
⇒ 「中間レポート」に本論②で理解したことを書き加え、「最終レポート」として提出する。

**大学の外に出て行き、立川の団地で行事を手伝ったり、地域の人たちを大学に招待して大学体験をしてもらったりしています！！**
**⇒<調査研究／教育／大学と地域の協業>の融合です!!**

ヴェトナム、ラオス、カンボジアからの難民の人たち、南米や中国から来た人たちが暮らす団地に、学生の人たちとともに、10年以上かかわりました。写真は、1999年8月7日と2003年8月10日の湘南団地の夏祭りです。

アフリカからの難民が押し寄せる地中海の都市メリリャで